コンサルへの期待！

河　瀬　日　吉*

わが国のプレストレストコンクリート（以下 PC）に関する歴史を紐解くと，昭和 30 年に PC 工業協会（現 PC 建設業協会）が，昭和 33 年に PC 技術協会（現 PC 工学会）が発足し間もなく 60 年を迎える。

また，昭和 34 年に事務次官通達により「土木事業に関する設計と施工の分離」が謳われたことを受けて建設コンサルタント業界が誕生している。ともに今日に至る社会基盤の構築を担った業界ではあるが，近年，建設コンサルタントは事業者の業務を支援するパートナーからエージェントとして認められるようになってきた。

そのような状況の下，建設コンサルタントは，学会，各種委員会への参画，技術講習会，シンポジウム，国際会議，現場見学会への参加等を通じて新技術，新形式，新工法等の情報収集，習得に努め，社会的責任を果たすべく研鑽している。

一方，PC 建設業協会広報誌 PC プレス 4 号“PC の更なる普及に向けて”に，「施工者側に設計を担当させては？」という働きかけを発注者側に行っているとの発言が掲載されており，同様の動きが鋼橋においても叫ばれていることも周知の事実である。これは，計画，設計を主な業務とする建設コンサルタント業界の在り方への警鐘とも捉えられる。示方書，基準に準拠し，仕様規定を満たし及第点を得る成果では，必要かつ十分な顧客ニーズ，架設要件に応えていないことを暗示している。現場に応じたより客観性，具体性のある要求性能型執行への転換を示唆されているのではないかと考える。

改めてコンサルタントの特徴を生かした業務とは？を原点に返って再確認することが重要である。

円滑，効率的な事業展開が求められる昨今，コンサルタントの有する事業評価，環境調査・分析評価等の総合力を生かした多元的な執行は，従来の設計コンサルから，新たなスタイルへの一歩と考える。

建設コンサルタント業界を PC に関係する資格試験から顧みた場合，平成 25 年度の PC 技士，コンクリート構造診断士の受験者全体に占める割合が，それぞれ 1.3 %，32.1 %であるのに対し，PC 専業者，建設会社の合計は 85.3 %，51.4 %である。前者が現場での PC 業務に従事する際の資格，後者が橋梁点検・診断等のコンサルタント業務に求められる資格として認識されていることを示している。コンクリート構造物の劣化が問題となっているが，計画，設計，建設，維持管理のそれぞれの過程における課題を把握することは重要であり，これらの資格取得へのチャレンジを勧めたい。また，PC 工学会の更なる活性化に向けて，建設コンサルタントからの学会加入者の増加，毎年開催される PC シンポジウムへの参加，学会誌“プレストレストコンクリート”への積極的な投稿に期待したい。

平成 22 年度を底にして建設業界も事業拡大傾向に入り，平成バブル期に匹敵する求人倍率を呈している。建設コンサルタントにおいても歓迎すべき状況ではあるが，他の業界同様，昭和から平成のインフラ基盤整備を支えたベテランエンジニアの大量退職による技術の空洞化に戦々恐々とするなかで，ノウハウ，テクニックの継承が急務となっている。一朝一夕には技術力，知恵，感性は習得できるものではないが，先輩，後輩相互の信頼関係の下，技術のキャッチボールを通じて個々の素養を伸ばし，組織力向上に繋げて欲しいものだ。グローバル時代の多様化するニーズに応えるのは次代を担う人材である。

彼らには，PC を“ものつくり”の立場から，豊かな社会を構築する技術として必要不可欠な魅力あるものであることを，身を以て体現してもらいたい。

“PC 技術者を一人でも多く！”を結びのことばとします。

【2014 年 7 月 10 日受付】

* *Hiyoshi KAWASE*：八千代エンジニヤリング㈱
本工学会 理事